

# 標識オオハクチョウ：2 C 21：13年連続 ウトナイ湖サンクチュアリに飛来する

加 藤 喜 七

ハクチョウの生態調査の目印としてつける足輪・首輪などの標識は、国内と国内で観察の可能性のあるシベリアを含め合計416羽のハクチョウにつけている（1988年まで）。2 C 21はこの一環として1980年2月ウトナイ湖で標識をつけたオオハクチョウである。

この2 C 21が13年連続ウトナイ湖に飛来した事を11月4日確認した。

標識による確かな記録として最長記録である。

この機会に2 C 21のこれまでの経緯の概要をまとめてみた。

## 1. 標識をつけた時点での記録

- ① 標識をつけた日時と場所：1980年2月20日，ウトナイ湖。
- ② 年齢と性別：成鳥，雌
- ③ 標識をつけた人：山階鳥類研究所・佐藤 文男，他。
- ④ その他：2 C 21を含め6羽，同時につけた。

## 2. 13年連続飛来

2 C 21はこの春（1991年）まで12年連続ウトナイ湖に飛来していた。標識による確かな記録としてはコハクチョウ001Yと共に国内では最長記録であった。

ハクチョウの寿命に7～8年から10年くらいと推測されているので、13年目のこの秋（1991年）の飛来は無理かと思っていた。しかし長野県の諏訪湖でコハクチョウのくちばしの黒と黄色の模様の違いで個体識別をして、種々の調査を行っている林 俊夫さんが、2羽の番が13年連続飛来した事を確認している（野鳥：1988年12月号）。

この事例から13年目の飛来に若干の期待はかけていた。

11月4日，標識ヒシクイの調査にウトナイ湖に向いた。その帰路，ウトナイレイクホテルのボート乗り場付近までくる。その周辺に観光客の与える餌にハクチョウが集まっている。群れの中に首輪をつけたオオハクチョウがいる。一瞬，標識コハクチョウとの見間違いかと思ったが，紛れもなくオオハクチョウである。

近寄って2 C 21であることを確認した。13年の歳月を経た首輪の色はくすんでいるが2 C 21の記号ははっきり読み取れた。

飛来年数が2 C 21の次に長いのはコハクチョウの001Yの12年（1975年～1986年）であるが，この期間中，延べ5年飛来記録が途絶えている。

2 C 21，001Yを含め8年以上飛来した標識ハクチョウの記録は15例ある。

首輪の平均耐用年数は3～4年との調査結果があるので，相当な数のハクチョウが連続飛来しているのではないか。

## 3. 年齢：標識をつけたとき成鳥であった。従って， $(X+13)$ 才になる。

4. 渡りの経路：ウトナイ湖で越冬していた鳥のようで、ウトナイ湖より南での観察記録はない。同時に標識をつけた他の5羽も同じである。同じ場所で越冬するようである。

又他地域での観察記録は少なく次の2例である。

南下時：涛沸湖（道東）1980年12月→ウトナイ湖

北上時：ウトナイ湖→コムケ湖（道東）1986年4月

5. 家族構成：ハクチョウは家族単位で行動するといわれている。2 C21の家族構成については記録の明らかでない年もあるが、6年目（1984年秋～1985年春）の成鳥2，幼鳥5を最多としその前後の年も幼鳥1～3羽を伴う家族単位の行動をしていたが、12年目は成鳥2羽（2 C21+1羽）で行動していた。13年目の今シーズンは2 C21単独で行動している。

6. その他：同時に標識をつけた2 C17は8年，2 C20は7年連続ウトナイ湖に飛来している。

資料1 8シーズン以上観察記録のある標識ハクチョウ

種別	No	標識		年齢	性別	経年観察回数												
		地名	月・日			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
オオハクチョウ	1975					1975	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	
	1C09	小湊	3-23	A	♀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1978					1978	79	80	81	82	83	84	85	86				
	1C54	小湊	3-9	A	♀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1C60	ウトナイ	3-11	A	♀	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	1979					1979	80	81	82	83	84	85	86					
	1C91	小湊	2-17	A	♀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1980					1980	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	
	2C21	ウトナイ	2-20	A	♀	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	2C17	"	"	J	♂	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
コハクチョウ	1975					1975	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	
	001Y	クツチ チャロ湖	4-14	J		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1976					1976	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86		
	006Y	クツチ チャロ湖	4-11	J		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	007Y	"	"	J		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1979					1979	80	81	82	83	84	85	86					
	015Y	クツチ チャロ湖	4-15	A?	♂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	016Y	"	"	A	♀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
018Y	"	"	A	♂	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ソ連の コハク チョウ	1976					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	006C	チャウ ン湖	8-29	J		◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	014C	"	8-31	J		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	1977					1977	78	79	80	81	82	83	84	85	86			
	022C	チャウ ン湖	8-19	J		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

◎ ウトナイ湖で観察記録のあったもの

● 死体を確認したもの

記録は1986年春までのものである。

但し 1C60・2C17・2C21の記録は1991年11月までの記録である。

資料2

オオハクチョウ 2C21の行動-(1)

標識地	ウトナイ湖	標識年月	80-2-20	年齢	A	性別	♀
-----	-------	------	---------	----	---	----	---

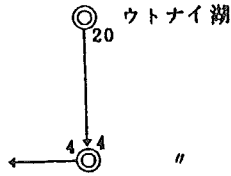
シーズン	年・月	ソ 速	北海道				青 森	秋 田	岩 手	宮 城	新 潟	福 島	家族構成	
			道北	道東	道央	道南							成鳥	幼鳥

2C21/  
他

① 80-2

3

4



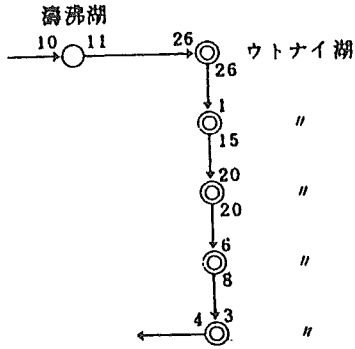
② 80-12

81-1

2

3

4



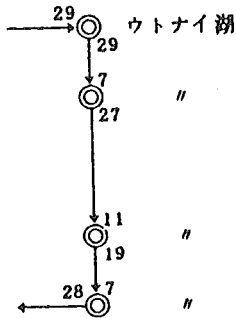
③ 81-11

12

82-1

2

3

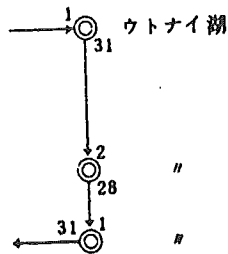


④ 82-12

83-1

2

3

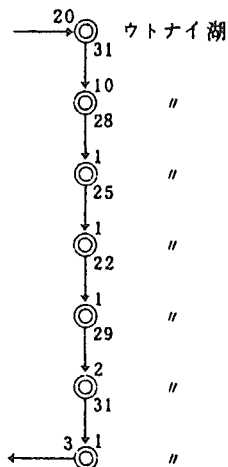


オオハクチョウ 2C21の行動-(2)

シリーズン	年・月	ソ連	北海道				青森	秋田	岩手	宮城	新潟	福島	家族構成	
			道北	道東	道央	道南							成鳥	幼鳥

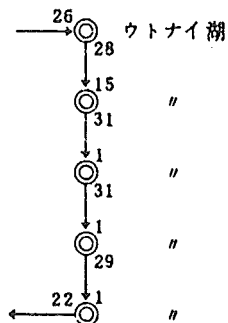
2C21/  
他

⑤ 83-10



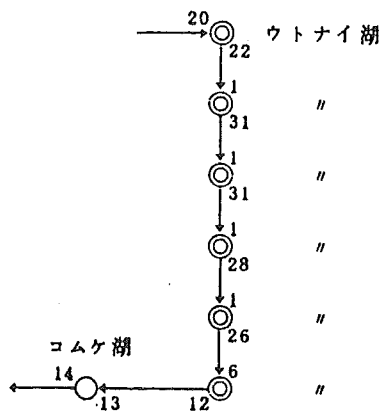
0/1	3
-----	---

⑥ 84-11



0/1	5
-----	---

⑦ 85-11



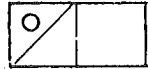
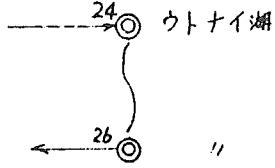
0/1	1
-----	---

オオハクチョウ 2C21の行動-(3)

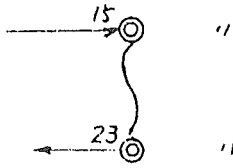
シリーズン	年・月	ソ連	北海道				齊森	秋田	岩手	宮城	新潟	福島	家族構成	
			道北	道東	道央	道南							成鳥	幼鳥

2C21/他

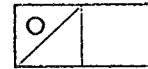
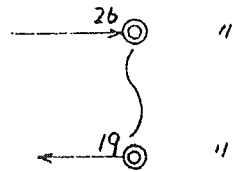
⑧ 86-11  
87-3



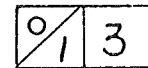
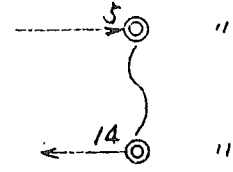
⑨ 87-11  
88-3



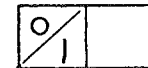
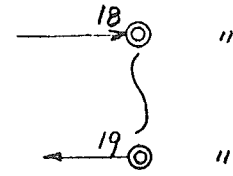
⑩ 88-10  
89-3



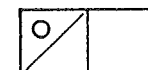
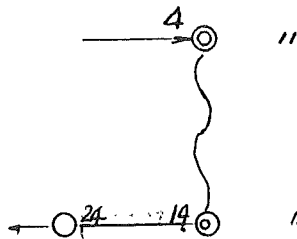
⑪ 89-11  
90-3



⑫ 90-11  
91-3



⑬ 91-11  
92-3



野鳥  
1992.6.45  
●長野ハクチョウ「2C21」の標識をつけた白鳥が、網走市東部の瀧湖白鳥公園に三月二十四日にきていました。  
網走市・増田勇

## 引用文献

1. 山階鳥類研究所, 鳥類観測ステーション報告
2. 日本野鳥の会「野鳥」 1988-12
3. 日本白鳥の会「日本の白鳥」 №14-1988
4. ウトナイ湖サンクチュアリ・野鳥観察日報